

環境学研究科 「特定課題研究演習」 審査基準

修士課程

1.修了基準について

環境マネジメント専攻 2年制コース	合計30単位以上を修得するとともに、「特定課題研究演習」について本研究科が行う研究成果の審査及び試験に合格すること。
環境マネジメント専攻 社会人1年制短期コース	合計30単位以上を修得するとともに、特定課題研究演習について本研究科が行う研究成果の審査及び試験に合格すること。

2.審査基準

修士論文「特定課題研究」
審査の要点

本研究科における修士号の学位審査にかかる修士論文「特定課題研究演習」は、執筆者が、環境学についての幅広く深い知識や経験のもと、独自の問題意識に立って、環境をめぐる解決や発展を図ることが期待されるものであり、以下の基準によって評価される。

1. 問題意識及び研究目的は明確になっているか。
2. 先行研究の吟味が行われているか。
3. 研究目的に沿った適切な研究方法・制作方法が取られているか。
4. 全体の構成が明確であり、分かりやすい文章や図表等が用いられているか。
5. 参考文献や引用が適切に表示されているなど、高い研究倫理にもとづくものとなっているか。
6. 新たな事実・解釈・方法の提示や表現など独自性がみられるか。

環境学研究科 博士論文「特殊研究（研究指導）」 審査基準

博士後期課程

1.修了基準について

必修 18 単位、選択した分野の科目群から計 4 単位、合計 22 単位を修得し、博士論文の審査及び試験に合格しなければならない。

2.審査基準

博士論文 「特殊研究（研究指導）」 審査の要点

本研究科における博士号の学位審査にかかる学位論文は、環境学・環境問題に関する執筆者の、深く幅広い専門知識や高い倫理性と独自の問題意識のもとに、その解明・解決を図ることが期待されるものであり、以下の基準によって評価される。

1. 学位論文の内容に、該当する専門分野でのこれまでの研究を踏まえた学位申請者の十分な独創性があり、当該分野の学理究明と環境が保全された持続可能な社会の構築に貢献するものと認められること。
2. 学位論文のテーマに関する研究動向の把握や文献等の各種資料の調査・整理が十分に行われ、それらを基にした自らの研究の重要性や位置付け、関連研究との相違ならびに関係性が明確にされていること。
3. 学位論文の研究目的を達成するために採用した手法やその組み合わせが、当該分野の専門性を十分に踏まえた適切なものであり、全体の構成を含め、内容では一貫性を保持した合理的記述が展開され、研究目的に対応した明確な結論が提示されていること
4. 学位論文は、高い倫理遵守意識に基づいた、国際的な研究規範を十分に満たしていること。
5. 研究成果の発信のための十分な発表技能を有すること。